



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2005.6 月号

昔のお祭りの写真をお持ちではないでしょうか？

平塚市内の神社祭礼が今日の盛況をり 戻したのは昭和 50 年以降のことで、昭和 40 年代は神輿の渡御や太鼓の演奏をとりやめていた神社も少なくありません。急速な時代の変化で、世の中のしくみが変わり、地域の伝統を維持できなくなったのです。

昭和 30 年代以前のお祭りは、とても盛大でした。青年団の若衆は宵宮に夜通し太鼓を叩き、やぐらの上で居眠りをして朝を迎えたり、「ワッショイ、ワッショイ、あしたはねえど、今夜はあんど」と叫びながら夜中までお神輿を担いだりと、有り余るエネルギーをすべてお祭りに注ぎ込んだかのようにした。

写真があると昔のお祭りの様子を具体的に

知ることができます。今のお祭りとどこが違う、何が変わっていないかを知ることができます。昭和 29 年の入野の写真には、女性物の着物を着て帯を締めた青年が見られますが、これが当時は粋な姿でした。昭和 21 年の土屋惣領分の写真は、戦後に流行した青年団の素人芝居の様子です。城所の写真は、5 カラ分の太鼓やぐらを組み、沼目、大島、大竹、馬渡と記されています。互いのお祭りに呼び合い、太鼓の鳴りを競うことは平塚の伝統でした。

博物館では 7 月 23 日（土）～9 月 4 日（日）にかけ、夏期特別展「平塚のお祭りーその伝統と創造ー」を開催します。市内 58 神社の祭礼を写真、お神輿、山車、太鼓などの諸資料で紹介いたします。その中で、お祭りの古い写真もパネルに引き伸ばし、なるべく多く展示したいと考えています。もしも、昭和 40 年以前に撮影したお祭りの写真をお持ちでしたら、ぜひご一報ください。一枚の写真が当時の風俗、暮らし、人の心の躍動までも伝えてくれるのです。（浜野）



○入野で神輿を担いだ最期の年（昭和 29 年 4 月撮影、江原一男氏寄贈）



○土屋惣領分のお祭りで青年団男女が演じた国定忠治の芝居（昭和 21 年 4 月 21 日撮影、古正タミ子所蔵）



○城所貴船神社の太鼓櫓と青年団（瀬尾勇氏所蔵）

古代道路状遺構の展示について

平塚の地に古代の官衙である相模国府が置かれたことは、今までの調査によって明らかにされつつあります。2003年12月に新聞報道や現場説明会が行われた湘南新道関連遺跡群「坪ノ内遺跡」では巨大な掘立柱建物跡が公開され、相模国府の存在がより大きくクローズアップされました。幻の相模国府が確かな現実味を帯びてきました。さらに、2004年の4月には東中原E遺跡第4地点で古代の道路が発見され、現場説明会には多くの方が参加され、古代のロマンを満喫されました。

博物館では、この古代道路の歴史的意義を考え、道路遺構の一部をカットし、後世に伝えるために保存処理を行いました。この保存処理した道路遺構は2階の展示室で公開していますので、是非ご覧下さい。また、道路が発見された場所には現在西友平塚支店が建っていますが、教育委員会や関係者のご努力により、敷地内に記念碑と道路の痕が再現されています。あわせて見学されることをお勧めします。

さて、この道路発見の意義ですが、正しく、相模国府が平塚に在ったことを証明する素材と考えます。古代国家は畿内を中心として全国に七道と駅制をしいて、その道の近くに国の公的施設である国府を建設しました。国府と国府を結ぶ駅路には30里（約16km）ごとに駅家が置かれます。東海道に属する相模国の駅家は、『続日本紀』に夷参駅（座間市）が、『延喜式』に坂本駅（南足柄市）、小総駅（小田原市）、箕輪駅（平塚市）、浜田駅（海老名市）が記載されています。当初の駅路は『古事記』『日本書紀』に登場する「ヤマトタケル」のルートが東海道と考えられていますので、御浦郡（横須賀）の走水を通って、上総国を抜けて常陸国に向かいます。しかし、時代の流れとともに、駅路のルートが変化し内陸部を通っていたことが古記録から分かります。

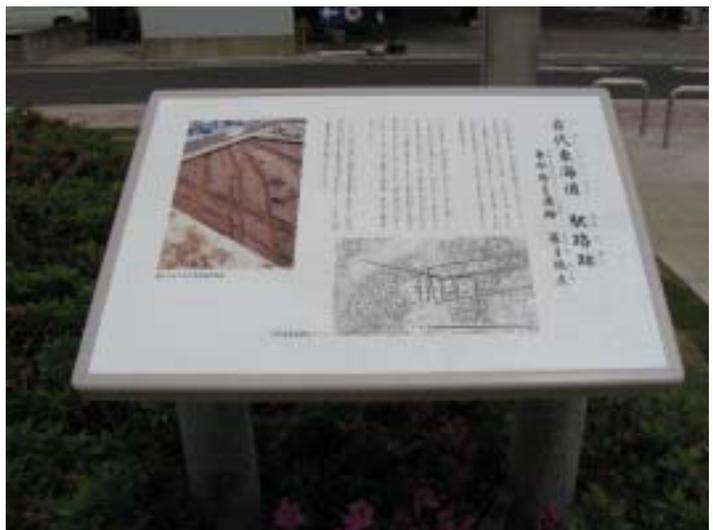
現在、東海道が確認されているのは、静岡県静岡市の曲金北遺跡（幅12m）と平塚の構之内遺跡第3地点・東中原E遺跡第4地点などです。古代道路の発見は古代の交通・流通・国府などを研究する上で大変意義のあるものと言えます。（明石）



○博物館2階で展示しています。



○東中原E遺跡の調査風景



○西友平塚支店に建てられた記念碑

博物館カレンダー

2005年6月の行事

6	2	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
6	3	金	古文書講読会	講堂
6	4	土	地質調査会	科学室
6	5	日	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
6	7	火	全館燻蒸休館(～6/17)	
6	9	木	石仏を調べる会	岡崎
6	11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
6	12	日	古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 野外
6	18	土	☆ 寄贈品コーナー「空襲60年」(～7/31) ☆ プラネタリウム「太陽の動き・月の動き」 星まつりを調べる会 天体観察会「月面」	展示室 プラネ室 特研究室 屋上・科学室
6	19	日	みんなで調べよう「ツバメ調べ」 民俗探訪会「展示製作」 ◎ ろばたばなし ○ 戦跡めぐり	科学室 講堂 展示室 市内
6	21	火	☆ プラネタリウム「学習投影(～7/15)」	プラネ室
6	22	水	平塚社寺調査会	特研究室
6	23	木	石仏を調べる会 植物誌調査会	岡崎 講堂
6	24	金	古文書講読会	講堂
6	25	土	自然の新聞を作る会 空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	野外 特研究室 講堂
6	26	日	○ 相模川の生き立ちを探る会 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	野外 プラネ室

☆: 展示(無料)、プラネタリウム(観覧料) ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

☆ プラネタリウム	
「6月の天文現象」	
投影日: 6月4日(土) 14時	
観覧料: 100円(中学生以下無料)	
「太陽の動き・星の動き」	
投影日: 6月18日(土)～7月17日(日)までの土曜日の14時、日曜日の11時と14時	
観覧料: 100円(中学生以下無料)	
幼児むけ投影「はやぶさとちいさな星におでかけ」幼児～小学校低学年児童向けの内容です。	
投影日: 6月18日(土)～7月16日(土)までの土曜日の11時	
☆ 寄贈品コーナー	
「平塚大空襲60周年記念展」	
空襲60周年にあたり、平塚の空襲と戦跡を記録する会の調査・研究成果を展示します。	
会期: 6月18日(土)～7月31日(金)まで	
<参加者募集>	
◎ 漂着物を拾う会	
海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。	
日時: 6月11日(土) 9時30分～11時	
場所: 平塚虹ヶ浜海岸	
参加: 自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)	
◎ 平塚空襲60周年記念事業 第2回戦跡見学会	
八幡・追分方面の戦跡を巡見します。	
日時: 6月19日(日) 13時30分～15時30分	
申込: 6月10日(金)までに往復はがきで博物館へ	
定員: 40名(応募多数の場合は抽選)	
◎ ろばたばなし	
民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。	
日時: 6月19日(日) (1)13時20分～ (2)15時～	
場所: 展示室・民家	

2005年7月の行事

7	1	金	古文書講読会	講堂
7	2	土	地質調査会	野外
7	3	日	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
7	7	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
7	8	金	古文書講読会	講堂
7	9	土	◎ 漂着物を拾う会 星まつりを調べる会	虹ヶ浜 野外
7	10	日	古代遺跡を探す会 地質調査会	野外 科学室
7	14	木	石仏を調べる会 湘南コケの会	特研究室・横内 講堂・野外
7	15	金	古文書講読会	講堂
7	16	土	リレートーク「市民が探る平塚空襲」	講堂
7	17	日	◎ 民俗探訪会「展示製作」 ろばたばなし	講堂 展示室
7	20	水	裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研究室
7	21	木	○ 展示解説ボランティアの会 体験学習「縄文土器を作ろう」	特研究室 科学室
7	22	金	○ 体験学習「縄文土器を作ろう」 古文書講読会	科学室 講堂
7	23	土	☆ 夏期特別展「平塚のお祭り その伝統と創造」(～9/4) ☆ プラネタリウム「アインシュタインの夢」(～9/4)	特展室 プラネ室
7	23	土	空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	特研究室 講堂
7	24	日	相模川の生き立ちを探る会	野外
7	27	水	○ 体験学習「こども考古学クラブ」	野外
7	28	木	○ 自然観察入門講座「貝化石を調べる」 石仏を調べる会 ◎ 星を見る会「夏の星空」	野外 特研究室 屋上・科学室
7	29	金	○ 体験学習「こども考古学クラブ」	科学室
7	30	土	○ 体験学習「こども考古学クラブ」 天体観察会「スターウォッチング調査」	科学室 屋上・科学
7	31	日	○ 天体観察会「スターウォッチング調査」 君もプラネタリアン	屋上・科学室 プラネ室

◎ 自然の新聞を作る会
自然の観察をして、新聞にまとめます。
日時: 6月25日(土) 13時～16時
場所: 高根付近
申込: 6月10日までに往復はがきで博物館へ
定員: 30名(応募多数の場合は抽選)

◎ プラネタリウムで宇宙を学ぶ会 テーマ「太陽系」
プラネタリウムの機能をフルに使って、宇宙のしくみを解説します。
日時: 6月26日(日) 15時30分～16時30分
参加: 自由(10分前にプラネタリウム室まで)

◎ 開館30周年記念誌「わたしと博物館」原稿募集
博物館は平成18年で開館30年を迎えますが、その記念として、市民の方々から博物館との関わり、博物館への期待などを書いた原稿を募集します。くわしくは応募要項をごらんください。
原稿の文字数: 1200字以内
しめきり: 17年8月末
応募要項: 博物館受付で受け取るか、またははがきで請求してください。

※常設展・特別展ともにボランティアによる展示解説が受けられます。

燻蒸にともなう博物館休館のお知らせ

6月7日(火)～6月17日(金)まで

あなたと博物館 31巻3号 通算342号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>